

事業群評価調書（令和7年度実施）

基本戦略名	3-2 地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る	事業群主所属・課(室)長名	地域振興部 新幹線対策課	川口 正剛
施策名	2 九州新幹線西九州ルートの整備と開業効果の拡大	事業群関係課(室)	都市政策課	
事業群名	① 九州新幹線西九州ルートの整備促進	令和6年度事業費(千円)	※下記「2. 令和6年度取組実績」の事業費(R6実績)の合計額	4,822,723

1. 計画等概要

2. 令和6年度取組実績（令和7年度新規・補正事業は参考記載）

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費（単位:千円）			事業概要 令和6年度事業内容及び実施状況 (令和7年度新規・補正事業は事業内容)	指標（上段：活動指標、下段：成果指標）				令和6年度事業の成果等	
				R5実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R5目標	R5実績	達成率		
				R6実績					R6目標	R6実績			
				R7計画					R7目標				
				事業実施の根拠法令等									
				事業期間	法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業			他の評価 対象事業 (公共、研究等)				
所管課(室)名				事業対象									
取組項目 i	○	1	新幹線・鉄道整備促進 事業	662,613	385,513	38,295	●事業内容 全線フル規格の実現に向けた国等への要望活動や情報収集、県内向けの広報・啓発活動 県内鉄道網の整備並びに改善の促進 ●実施状況 政府・与党、国土交通省、財務省等へ全線フル規格の早期実現を要望した。 長崎新幹線・鉄道利用促進協議会と連携し、JR九州へ鉄道網の整備促進に関する要望を実施した。 長崎新幹線・鉄道利用促進協議会と連携し、イベントや公共交通機関車両を活用した広報活動、ノベルティグッズ製作等を実施した。 上下分離方式での運営へと移行したJR長崎本線（江北～諫早）の鉄道施設の維持管理を実施した。	【活動指標】 要望活動（回）	数値目標なし	3	—	●事業の成果 ・国土交通省と佐賀県の間での協議や与党での検討をはじめ、関係者間での議論が行われており、令和6年7月には与党PT検討委員会から沿線自治体への意見聴取が行われ、本県として課題解決に向けた具体策の提示など強く訴えた。また、令和6年8月には国土交通省と佐賀県による「幅広い協議」が実施された。加えて、広報活動等により、西九州新幹線の開業やフル規格による整備に対する気運が高まった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・九州新幹線西九州ルートの整備促進に寄与した。	
				720,400	240,836	39,420			数値目標なし	5	—		
				562,498	230,503	37,027			数値目標なし				
				—				【活動指標】	10	11	110%		
									10	14	140%		
									10				
			H7-				利用促進のための県 民向け講座（回）						
			新幹線対策課	—			国、市町、鉄道事業者等	【成果指標】 JRによる府県相互間 旅客輸送人員〔関 西・中国・福岡県～ 長崎県（千人）〕	2,305	1,812	78%		
									2,305	算定中	—		
								2,305					

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i 西九州ルートの特和4年秋までの開業と全線フル規格化の実現			●実績の検証及び解決すべき課題 新鳥栖～武雄温泉間の整備のあり方については、現在、政府・与党での検討をはじめ、関係者間で議論が行われている。在来線や地方負担等の課題の解決に向け、様々な場で精力的に協議を積み重ね、議論を進展させることが必要である。また、県外への情報発信等を行うことで全線フル規格への気運醸成を図ることが必要である。	●課題解決に向けた方向性 地方負担や並行在来線等の課題解決を図り、関係者が納得する形で早期に整備が実現できるよう、西九州地域全体の視点から、議論を積み重ね、関係者との協議をもつとともに、県外向けの情報発信等を行うことで全線フル規格による整備の早期実現を目指していく。
ii JR佐世保線の輸送改善に向けた取組			●実績の検証及び解決すべき課題 JR九州及び佐世保市と協議を重ね、令和4年9月の九州新幹線西九州ルートの特和に合せて、JR佐世保線の高速度事業を実施することができた。引き続き、佐世保線の利便性を向上していく必要がある。	●課題解決に向けた方向性 JR佐世保線の利便性向上に向けて、佐世保市と連携しながらJR九州に継続して働きかけていく。
iii 西九州ルートの特和早期完成・開業を目指した整備促進			●実績の検証及び解決すべき課題 西九州ルートは令和4年9月23日に開業し、着実に工事を進めることができた。令和7年度までは残事業（高架下等の工事や環境対策対応）を実施予定である。残事業にあたっては、特に課題は無い。	●課題解決に向けた方向性 残事業（高架下等の工事や環境対策対応）が早期に完了できるよう、鉄道・運輸機構や地元市町等と連携し、進捗を図っていく。
iv 開業を契機とした関係市町と連携したまちづくりの推進			●実績の検証及び解決すべき課題 長崎駅周辺連続立体交差事業については、令和2年3月28日に高架化が完了しており、残事業は、稲佐立体交差改良及び側道整備となっている。側道整備にあたっては、特に課題は無い。	●課題解決に向けた方向性 工事進捗をはかり、稲佐立体交差改良及び側道整備を完成させる。

4. 令和7年度見直し内容及び令和8年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	令和7年度事業の実施にあたり見直した内容	令和8年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			所管課(室)名				
取組項目i	○	2	西九州新幹線ネットワーク強化事業費	※令和7年度の新たな取組は「R7新規」等と、見直しがない場合は「一」と記載 —	②	新幹線効果の拡大や全線フル規格の必要性について、より多くの方に伝え、理解を高めてもらうため、シンポジウムの内容等を改めて経済団体と協議するとともに、県外向けPRについてもエリアや手法を見直して、より効果的な気運醸成に繋がるよう努める。	改善
			(R7新規)R7-9				
			新幹線対策課				

注：「2. 令和6年度取組実績」に記載している事業のうち、令和6年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】
① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができていないか。
⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案（制度改正要望）する必要はないか。
⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
⑩ その他の視点